

第10回滋賀県多職種連携学会記念研究大会 報告書

学会テーマ：「2040年を見据えた多職種連携」

開催日時：令和7年12月7日（日）9:30～16:30

会場：守山市役所（守山市吉身二丁目5-22）

学長：高橋 健太郎（一般社団法人滋賀県医師会 会長）

大会長：田中 成浩（一般社団法人滋賀県病院協会）

参加者数：135名

開会式



基調講演

「2040年に向けた健康なまちづくり」

講師：近藤 尚己（京都大学大学院医学研究科 社会疫学分野 主任教授）

座長：雨森 正記（滋賀県医師会）

（座長コメント）

近藤尚己先生の講演は、健康を医療だけで捉えるのではなく、社会環境や人とのつながりが重要であるという、私自身がこれまで考えてきた視点を裏づける内容であった。社会的孤立が健康に与える影響や、社会的処方の考え方は、日々の診療や地域での実践と強く重なった。今後も多職種と協働し、地域の中で人と資源をつなぐ医療を実践していきたい。



企画演題

「回復期リハビリテーション病棟における多職種連携の今までとこれから」

座長: 田中 成浩(甲西リハビリ病院 理事長・院長)

平田 知大(市立野洲病院 整形外科部長・リハビリテーション科部長)

報告者: 比嘉 絵里香(琵琶湖中央リハビリテーション病院 看護師長)

浅川 理恵(市立野洲病院 患者サポートセンター MSW)

石黒 望(近江温泉病院 総合リハビリテーションセンター顧問 作業療法士)

山下 恵(公立甲賀病院 地域医療連携部 社会福祉士)

(座長コメント)

仕事上リハビリを通じての連携が私の中では中心であったが、それのみでなく、他の分野でも様々な連携がなされている事を知り、不勉強を思い知らされた。と、同時に連携はあくまでもコミュニケーションが下手になってしまった現代の我々の繋がりを改めて再考させるきっかけにもなったと思う。昔なら電話一本で事が済ませた時代から形から入らなくなってしまった今の我々を温故知新で取り戻す機会になれたら。そんな気がする。

「就労支援での多職種連携」

座長: 城 貴志 (NPO法人滋賀県社会就労事業振興センター 理事長)

報告者: 太田 光典(ヤンマーシンビオ시스株式会社)

大村 蓮華(同上)

青木 尚子(同上)

岩崎 清美(働き・暮らしコトー支援センター)

(座長コメント)

就労支援と多職種連携をテーマに、企業の人事担当者、企業で支援者として働く作業療法士、障害者従業員、外部の支援者がそれぞれの立場で発表をした。このような登壇者でのシンポジウムはあまり例がなく、学び多い企画になった。

人口減少、少子高齢社会の進行により、様々な業界において人手不足は深刻である。さらに令和8年7月には民間企業における障害者雇用率が 2.7%に引き上げられ、いっそう障害者雇用に関心を寄せる企業は増加することが予想されるなか、福祉、就労支援、企業のネットワークの構築は不可欠である。

本企画をきっかけに、地域の労働、福祉、医療、教育のネットワークが強化され、障害者雇用が促進されることを期待する。



記念大会特別企画

パネル展示「10年のあゆみと多職種連携の今後の展望」



一般演題/活動実践報告発表

■セクション1 「地域」 座長:永田 敦也(滋賀県障害者自立支援協議会)

地域—1(一般演題)

地域における子ども食堂の展開と地域課題解決への寄与

～子ども食堂を核とした地域づくりに関する事例的考察～

鎌田 宗純 (日野町役場福祉保健課 社会福祉士)

地域—2(一般演題)

滋賀県における失語症者向け意思疎通支援事業の報告～滋賀県言語聴覚士会～

伊井 純平 (滋賀県言語聴覚士会 言語聴覚士)

地域—3(一般演題)

障害福祉サービス事業所におけるリハビリテーション職による支援者支援の取り組み

野村 真悟 (滋賀県立総合病院 理学療法士)

地域—4(一般演題)

通所型介護予防教室の実践成果と今後の課題～運動機能に着目した前後比較による検討～

鈴木 耕平 (びわこリハビリテーション専門職大学 作業療法士)

地域—5(活動実践報告)

発達分野未経験 OT による訪問リハと学校との連携— OJT 事業導入へとつながった実践報告 —

加藤 智志 (訪問看護ステーションレインボウとよさと 作業療法士)

(座長コメント)

一般演題・活動実践報告とともに、論点が整理され、分かりやすい発表内容でした。また、質疑応答の時間において、他職種の方より質問を受け、発表者の方がその質問に回答される営みそのものが、本セクションに参加された全ての皆さんにとって貴重な多職種連携の場であったと思います。

また、発表や質疑応答の内容をノートに懸命に記録されていた学生の姿については、支援機関同士のみでなく、今後の世代を問わない多職種連携のあり方として印象に残りました。

貴重なお時間と多職種連携の機会を頂きまして誠にありがとうございました。

■セクション2 「医療」 座長:中馬 孝容(滋賀県立総合病院)

医療—1(活動実践報告)

回復期リハビリテーション病棟における公認心理師の役割ー市立野洲病院の場合ー

岡田 康志(市立野洲病院 リハビリテーション課 公認心理師)

医療—2(活動実践報告)

調理訓練後の喫食について多職種協議にて実施に至るまでの取り組み

伊勢 香織(医療法人幸生会 琵琶湖中央リハビリテーション病院 作業療法士)

医療—3(活動実践報告)

ST を含む多職種チームによる脳卒中患者の自動車運転再開支援とその実態

田中 彩音(医療法人幸生会 琵琶湖中央リハビリテーション病院 リハビリ療法部 言語聴覚士)

医療—4(一般演題)

精神科病棟と地域をつなぐ「学習支援プロジェクト」～制度の狭間を補完する公と民の多職種連携～

上村 文子(滋賀県教育委員会 スクールソーシャルワーカースーパーバイザー)

医療—5(一般演題)

ITB 療法と回復期・維持期連携による 3 年間～父親としての役割を取り戻す支援～

中川 めぐみ(医療法人恒仁会 近江温泉病院 総合リハビリテーションセンター 理学療法士)

医療—6(一般演題)

医療・介護・障害のそれぞれの強みを生かした連携で、実現できる退院後の在宅生活について

米原 次巳(居宅介護支援事業所 みずうみ 介護支援専門員)

(座長コメント)

口述発表セクション2「医療」では、前半に 3 演題の活動実践報告、後半に3演題の一般演題の報告があった。前半では、各病院での取り組みについての報告で、公認心理師の役割、調理訓練後の喫食のルール作り、自動車運転再開に関する支援についてで、後半は現場での取り組みについての報告であった。精神科入院中の小児患者の学習支援プロジェクト、父親としての役割支援のためのリハビリテーション介入、医療・介護・障害の連携についての報告であった。いずれもリハビリテーション・連携の底力を感じる報告で、多くの学びを得ることができたと思う。



閉会式

■学長賞

精神科病棟と地域をつなぐ「学習支援プロジェクト」～制度の狭間を補完する公と民の多職種連携～

上村 文子(滋賀県教育委員会 スクールソーシャルワーカースーパーバイザー)



■大会長挨拶



協賛ご芳名一覧(※敬称略・五十音順)

一般社団法人 滋賀県医師会

一般社団法人 滋賀県介護老人保健施設協会

一般社団法人 滋賀県作業療法士会

一般社団法人 滋賀県歯科医師会

一般社団法人 滋賀県歯科衛生士会

一般社団法人 滋賀県薬剤師会

公益社団法人 滋賀県栄養士会

公益社団法人 滋賀県看護協会

公益社団法人 滋賀県社会福祉士会

公益社団法人 滋賀県私立病院協会

公益社団法人 滋賀県理学療法士会

滋賀県介護サービス事業者協議会連合会

滋賀県介護支援専門員連絡協議会

滋賀県言語聴覚士会

滋賀県立リハビリテーションセンター

協賛広告ご芳名一覧(※敬称略・五十音順)

一般社団法人 滋賀県介護福祉士会

一般社団法人 滋賀県老人福祉施設協議会

滋賀県介護サービス事業者協議会連合会